

いい所をいただこう。沖縄凱旋にて山内を発信 村まるごと生活博物館交流 in 米須

地域のいい所探しをしている地区(沖縄県糸満市米須地区)との交流のために、7月には山内において多くの方に協力いただき、山内のいい所探しをしました。

次は沖縄米須に行く番として、やまえこメンバー10名が米須に行き、米須での地域資源のあるもの探しの取り組みを勉強してきました。沖縄の碧い海、空、照りつける日差し、伝統芸能のエイサー、祭事である大綱引き、郷土食、そしてみんなの命を大切にす沖縄の魂を4日間のあいだ、教えていただきました。この交流を元気な山内づくりに生かせるようにしたいと思っています。山内のやまびこ文化祭では、米須と山内交流展を考えています。

米須(こめす)村丸ごと生活博物館めぐり

地域全体を屋根のない博物館と見立て米須地区を、あすなる会の子も達が案内してくれました。米須地区において、子ども学芸員養成班の子も達としての位置づけです。自分たちで村の名所を探し、地域の暮らしや文化、自然を案内してくれました。泊まりは、米須での民泊、5軒の家に分かれて家族のように接してもらいました。沖縄言葉に「イチャリパチョーサー」(行き逢えばみな兄弟)とあります。穏やかに流れる時間の中で、呼び合う名前は子どもも大人も呼び捨て、皆が叱って、誉めて、目をかけている、(誰が親かわからない)地域で育てると言うのは、このようなことなのかと感激しました。やまえこの子ども達にもたくさんの米須の愛をいただきました。いつか再会したいですね。



子ども達が村を案内、町並みが沖縄らしい・・・

米須 (コメス)地区とは沖縄糸満市の南端、人口1,253人の村。米須小学校の全校児童は、約140人。最後の激戦区であった第二次世界大戦では全人口の半分以上が戦没した。土地は、干害を受けやすいが、2005年にできた地下ダムにより、農業用水を確保でき、地場のサトウキビ、人参、ゴーヤーの農業生産が高い。もともと人とのつながりを大切にする地域であるものの、少子高齢化、コミュニティ力の低下が見られるようになった課題に対して、米須自治会の中に2010年に米須農村再生発見事業世話役会が結成され、環境協定班、マップづくり班、生活学芸員班、もてなし班、集落美化班、生活感幸班が組織され活動。活動の原点は、村の歴史や文化を大切にする「あるものさがし」による村活性化ビジョンづくり。村まるごと生活博物館は美しく、楽しく、つつましい気持ちよい暮らしを来訪者にわかってもらう村づくりである。



米須生活感幸村 村丸ごと生活博物館 米須地区環境協定

私たちは、米須のいい自然を守り伝え、共に生きる暮らしづくりを進め、米須の環境をよりよくなっていきます。

- 1 水をきれいにしていきます。
・海を汚しません。分別しにくい合成洗剤はなるべく使いません。
・水質を保全し、水質を監視します。
- 2 できるだけゴミを出さない暮らしをします。
・資源物袋などゴミを減らす努力をします。
・生ゴミはできるだけコンポストにします。
- 3 自然とともに生きる暮らしを大切にしていきます。
・樹木の根、思いのある場所などを守ります。
・災害防止のため、米須での開発は計画段階で、米須地区に相談します。
・ゴミの不燃物袋は地区で取り回し、処理します。燃焼の場合は別袋を回収します。
・地区の草刈いやゴミ拾い活動に参加します。
- 4 農薬や化学肥料はできるだけ減らします。
- 5 空き地などに花を植え、米須花いっぱい運動を推進します。
- 7 EMなどの有用微生物群を活用し、環境浄化に努めます。
- 8 みんなであいさつの励行に努めます。

米須自治会 米須生活感幸村
（米須地区環境協定班事務局）

ちゅら海・海洋観察 “ サンゴ礁に熱帯魚がいっぱい ”

米須地区コミュニティセンターから、車で5分、裏の大渡海岸において海洋観察。
伊勢や福井とは、違ったサンゴ礁、沖縄の亜熱帯特有の海を実際に海に入りこの目で観察しました。
とにか、海がエメラルドであったことに感激しました。白い砂浜は、ウミガメの産卵地でもあったようです。



見て、聞いて、やってみたよ。 エイサー・大綱引き

沖縄には、陰暦6月～8月に行われる綱引き、いずれも集落単位で行われて、現在も100箇所以上で行われている。五穀豊穡、大漁祈願、家内安全、無病息災を願い、雄雌の綱の結合によって実りを予測するもの。米須においても8月12日は朝から村の方々が、出られ、ワラをもとにガジュマルの木を使って綱づくりをされていました。夕方の本番前には、直径1メートル近い大綱が2本できていました。やまえこは綱づくり、綱引きにも参加させていただきました。

エイサーに、挑戦！エイサーとは、沖縄県でお盆の時期に踊られる伝統芸能。この時期に現世に戻ってくる祖先の霊を送迎するため、若者たちが歌と囃子に合わせ、踊りながら地区の道を練り歩く。やってみただけできませんでした。



命どう宝「ヌチドウ タカラ」命ほど尊いものはない

戦争の悲惨さ、平和の尊さのあかしとして建てられた世界平和の殿堂「平和祈念堂」に行ってきました。丘には、1,600人あまりの滋賀出身の兵士たちの名前が刻まれた「近江の塔」がありました。

沖縄の方々のDNAに刻まれている「命どう宝」(命ほど尊いものはない)
“殺しあうのではなく助け合いなさい、奪い合うのではなく譲り合いなさい、だまし合うのではなく教えあいなさい”と、案内してくださった比嘉氏に聞きました。これは、敵味方もなく、戦争はしてはいけない、世界中の人々が共生していくことの魂の叫びです。48年経った今、薄れつつある記憶を風化させてはいけません。



最後の激戦地となった摩文仁



近江の塔



平和の蝶

オオゴマダラ



あなたも仲間 夢と感動と潤いを届ける 山内エコクラブ 随時メンバー募集してます。

事務局 〒528-0208 滋賀県甲賀市土山町黒川 2063 竜王真紀

URL:<http://www3.to/yamaeco> 電話 090-7966-2262

メール ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp